

## 領域 4 インフォーマルミーティング議事録

日時：2020 年 9 月 9 日(水) 18:00～19:00

場所：日本物理学会 2020 年秋季大会（物性） オンライン開催（書記：田邊、文責：小栗）

出席者（敬称略）

領域代表：小栗章、領域副代表：大岩顕、次期副代表：高根美武、

前代表：藤澤利正、前々代表：大槻東巳

運営委員：田邊洋一、真砂啓、秦徳朗、高田真太郎、藤田高史、塩崎謙

次期運営委員：植本光治、吉見龍太郎、井土 宏

次々期運営委員（候補）：中村壮智、小布施秀明、武田健太

他

### I. 報告事項

1-1. 物性領域プログラム小委員会・領域委員会報告（2020 年 5 月 27 日：オンライン開催）

- 物性領域プログラム小委員会・領域委員会報告）物性領域では、企画講演 2 件、企画講演 17 件、チュートリアル 2 件、シンポジウム 7 件が採択された。領域 4 からは渡辺悠樹氏の提案、および若手奨励賞記念講演が採択された。
- 秋季大会のオンライン開催に関する説明があった。
- 若手奨励賞について今年度の各領域の受賞数上限に関する説明があった。この上限値は各領域の年次会における講演数によって決定されるが、今後も従来とおり「合同理領域」の講演数を含めることが確認された。
- 2020 年秋季大会より、米沢賞受賞記念講演の枠が新設された旨の説明があった。
- 参加登録費および概要集アクセス権の扱いに関して意見交換をおこなった。
- 講演の英語対応についての調査は、2020 年 3 月の次大会でのインフォーマルミーティングにおいて各領域で意見交換をしてもらい今回の領域委員会で議論する予定だったが、まだ領域内での十分な議論ができていないこともあり、11 月の委員会での継続審議となった。

1-2. 領域 4：若手奨励賞について、

領域 4 の受賞者数上限は 2 名となったこと、および応募状況について説明があった。

1-3. 領域 4 : 学生優秀発表賞について

2019 年度の実施状況の報告があった。

一次審査員 : 18 名 (2019.9)、中止 (2020.3)

二次審査員 : 5 名 藤澤利正、小栗 章、大岩顕、小林研介、野村健太郎

応募者数、受賞者は次の通り :

2019 年秋 応募者数 15 名

受賞者 松岡 秀樹 (東大工)

横溝 和樹 (東工大)

2020 年春 応募者数 19 名

中止

また、2020 年度秋の応募者数は 32 名であった。

## II. 審議事項

2-1. 来年度代表、副代表として

次期領域代表 (2021.4 - 2022.3)

大岩 顕 (大阪大学 産業科学研究所)

次期領域副代表 (2021.4 - 2022.3)

高根 美武 (広島大学 大学院先進理工系科学研究科)

の両氏が領域代表より推薦され承認された。

2-2. 運営委員の紹介、次々期運営委員の決定

次々期運営委員(2021.4 から 1 年)が推薦・紹介され、承認された。

現役、次期、次々期運営委員の人員構成と任期は次の通り :

現役 (2019.10 - 2020.9)

真砂 啓 (阪大) [半導体]

打田 正輝 (東工大理) [トポロジカル]

田邊洋一 (岡山理科大) [グラフェン]

次期 (2020.10 - 2021.9)

→ 植本光治 (神戸大)[半導体]

→ 吉見 龍太郎 (理研)[トポロジカル]

→ 井土 宏 (東北大)[グラフェン]

現役 (2020.4 - 2021.3)

秦 徳朗 (東工大) [量子ホール]

塩崎 謙 (京大理) [トポロジカル]

藤田高史 (大阪大) [量子ドット]

高田真太郎 (産総研) [半導体]

次々期 (2021.4 - 2022.3)

→ 中村壮智 (物性研) [量子ホール]

→ 小布施秀明 (北大) [トポロジカル]

→ 武田健太 (理研) [量子ドット]

(2020.4 から 3 名体制に戻る)

2-3 運営委員の業務担当に関する報告（今期 → 時期）

- ・ 運営委員の連絡責任者  
打田 正輝（東大） → 高田真太郎（産総研）
- ・ 領域 4 HP 担当  
高田真太郎（産総研） → 塩崎 謙（京大理）
- ・ メーリングリスト・担当  
真砂 啓（阪大） → 藤田高史（阪大）
- ・ インフォーマルミーティング担当  
田邊洋一（岡山理科大） → 秦 徳朗（東工大）

2-4 第 76 回年次大会 (2021.3) に向けたスケジュールに関する報告

- ・ シンポジウム・企画講演等公募締切 11/12
- ・ プログラム小委員会・領域委員会 11 月下旬
- ・ インフォーマルミーティング申し込み締切 12/11
- ・ 一般講演申し込み締切 12/3
- ・ プログラム編集会議 12/18
- ・ プログラム暫定版 web 公開 1 月上旬。校正 1 月下旬-2 月上旬。
- ・ 講演概要集原稿締切 (Web) 1/20 14:00
- ・ プログラム掲載 2021 年 2 月中旬 (マイページにて PDF)
- ・ 年次大会 3/12~15 (東京大学 駒場キャンパス)

2-5 年次大会の招待・企画・チュートリアル・シンポジウムの申請

領域代表から、次回年次学会におけるシンポジウム・企画講演等の提案への呼びかけがあった。

## 2-5 学会講演の英語対応について

領域代表から、本件は 2019 年 11 月に開催された領域委員会から継続審議になっている事項で、本インフォーマルミーティングで意見交換を行い、その概要を次回 2020 年 11 月の領域委員会で報告するものである旨の説明があった。続けて、経緯説明として、2019 年 11 月の領域委員会議事録の関連部分の紹介があった：

- ・ 領域 7 より、インフォーマルミーティングでシンポジウムの使用言語を英語に一してはどうかと意見があがったとして、意見交換の要望があった。
- ・ 領域 3 でも英語化については領域内で議論があり、ポストドク以上の講演者はなるべく英語化（スライドやポスターの表記など）を推奨している。領域 1 でも過去に話題になっており、招待講演や、一般講演の発表資料などから始めてもよいと考えている。
- ・ 一方で、スライド資料と話しの内容が異なると、講演の理解が難しくなる懸念もある。また、応用物理学会などでは既に英語講演が広がっているが、質疑応答は日本語で行っていることが多い。
- ・ 過去には、講演の英語化推進のために「英語講演にした場合は講演時間が長く与えられるルール」が導入されたことがあったが、普及せずに廃止された。領域 5 でも、過去に若手奨励賞受賞記念講演を英語講演としていたことがあったが今は日本語で行っている。
- ・ 核物理領域は 4 年に 1 度ハワイで、日米合同で開催しているので実際に英語講演もおこなっているが、海外で発表できるモチベーションによるものでもあり、国内での発表になると難しいかもしれない。
- ・ 発表者の表現の自由を奪うこと、日本語表現を捨て去ることに懸念される意見が上がった。
- ・ 次回(2020.3)のインフォーマルミーティングで、企画・シンポジウムの英語化について、領域内で議論をしてもらうこととなった。

**[意見交換]** この経緯説明のあと、自由討論を行い次のような意見が挙げられた：

- ・ どのような経緯で英語講演の議論が始まったのかがよく分からない。
- ・ 領域会議における講演英語化に関する議論
  - ・ 留学生や外国人ポストドクの参加や講演増加が見込まれる。
  - ・ 日本人学生の敷居が高くなる。
  - ・ 企画・シンポジウム講演から英語化（スライド対応を含む）を考えても良いのではないか。
- ・ スライドの英語化は可能であるが、講演自体の英語化は目的次第ではないか。
- ・ 日本語講演には、学生を含むグループ全体での情報共有を通じた研究力の底上げが容易で

あるというメリットがある。物理学会として英語会議が必要であれば、物理学会主催の国際会議を別に立ち上げることも可能ではないか。先行の応物学会では、英語セッションを設けているが、参加者は主に外国人であり、講演件数も少ない。加えて、その他の通常セッションでも外国人は物理学会同様に英語講演を行っていることから、成功しているとは言えない。

- ・例えば、留学生や外国人ポスドクなどを対象とした新規会員の獲得など英語講演を導入する目的を明確にしたうえで、目的に合わせて柔軟に対応すべき問題である。現段階で、シンポジウム・企画講演を英語に固定するのは時期尚早ではないか。
- ・外国人の参加者は現段階で少ないので、目的次第ではないか。

#### **本議論を踏まえた現段階での領域4 インフォーマルミーティングの意見集約**

- ・スライドの英語化は可能かもしれない。講演の英語化については、目的を明確にした上対応すべきである。企画講演・シンポジウム講演の英語固定化は時期尚早。
- ・その他の意見があれば、メールで受け付けることにして終了。2020年11月の領域委員会で本日の議論をもとに領域代表が報告予定。(宛先:jps-r4-chair-2020@googlegroups.com)

#### 2-6. その他

特になし。

以上。